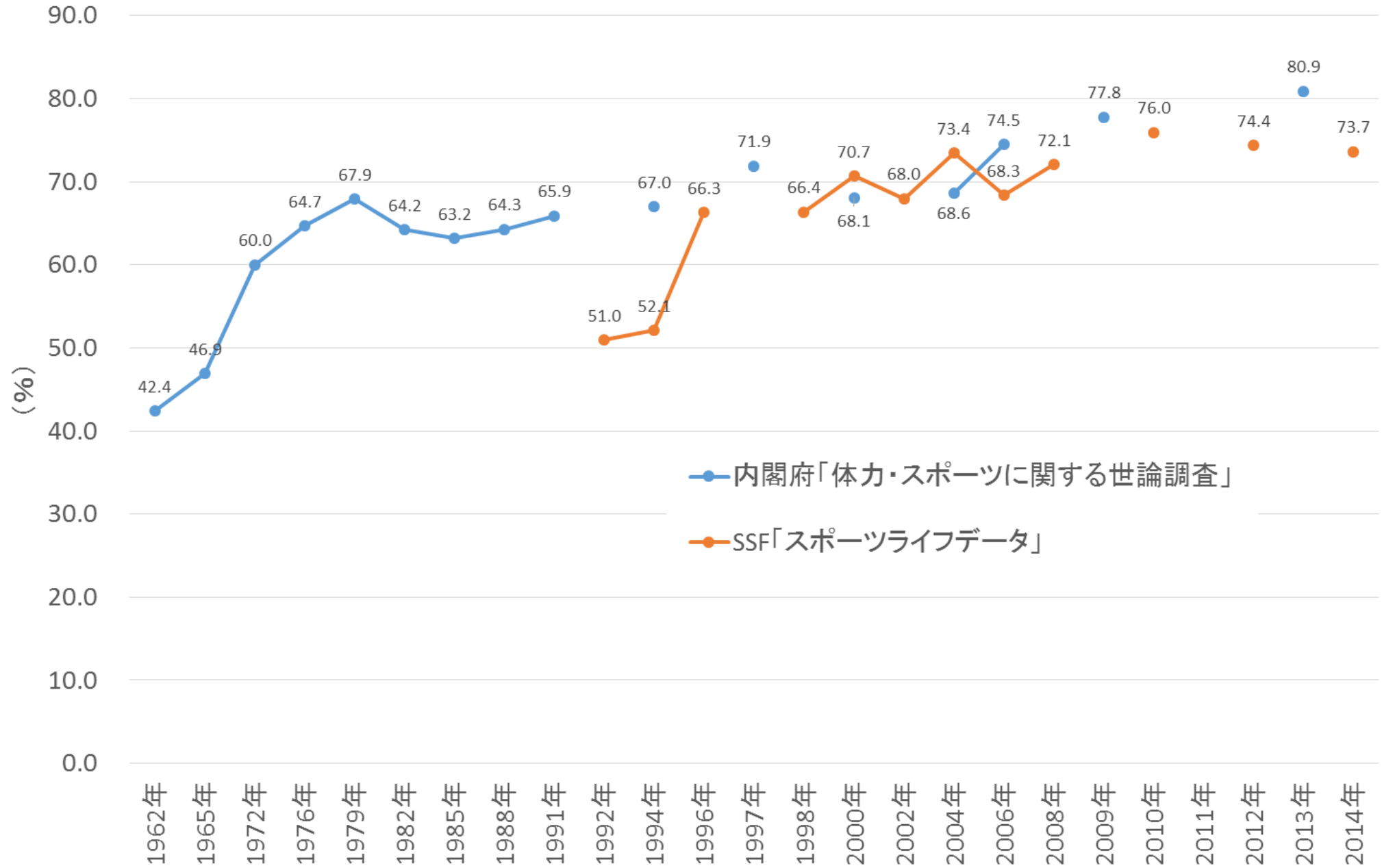


# 「わが国におけるスポーツのニーズ」

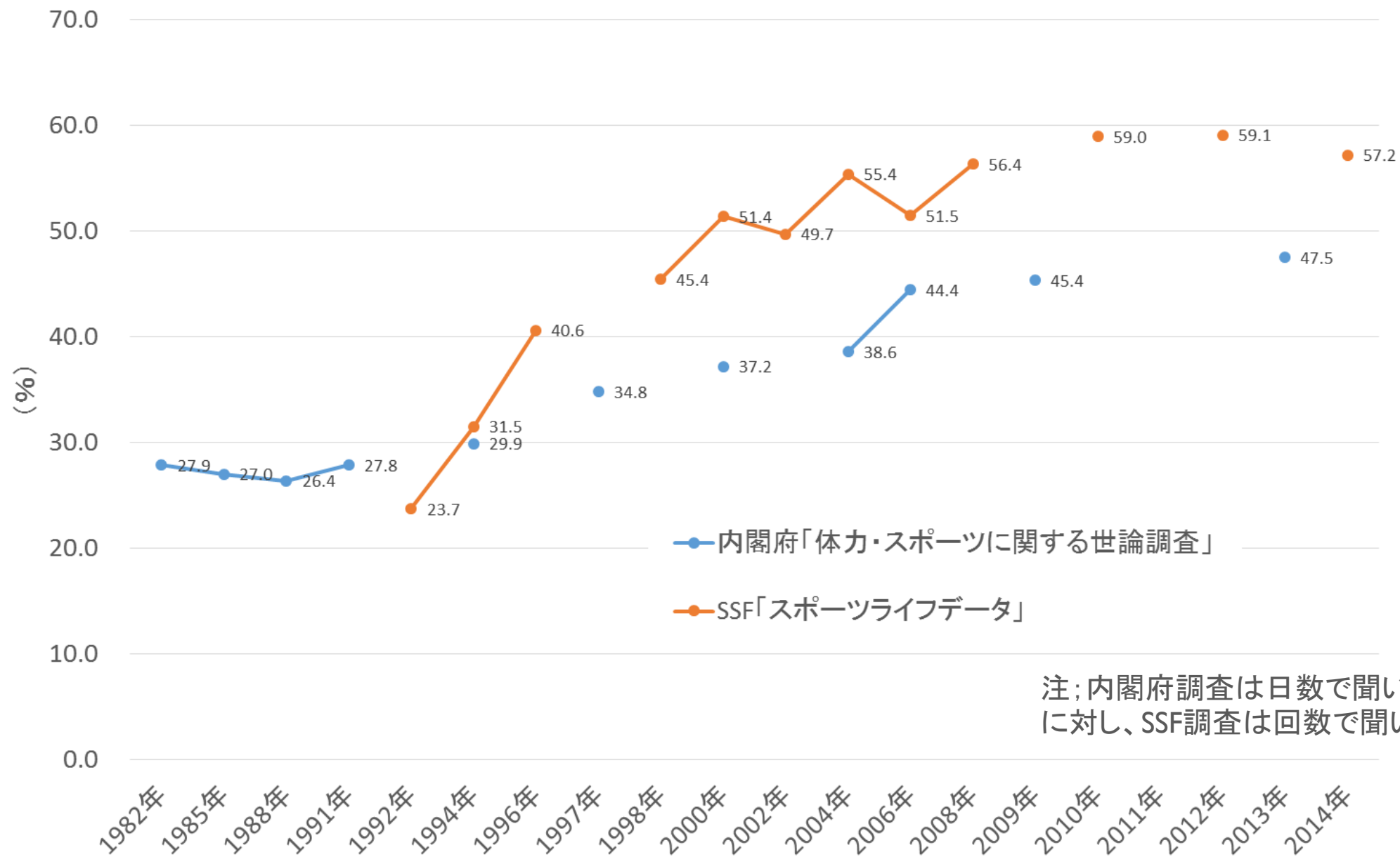
第2回 新規恒久施設等の後利用に関するアドバイザリー会議 2015年1月16日@東京都庁  
澤井和彦（桜美林大学）

# 運動・スポーツ実施率の推移

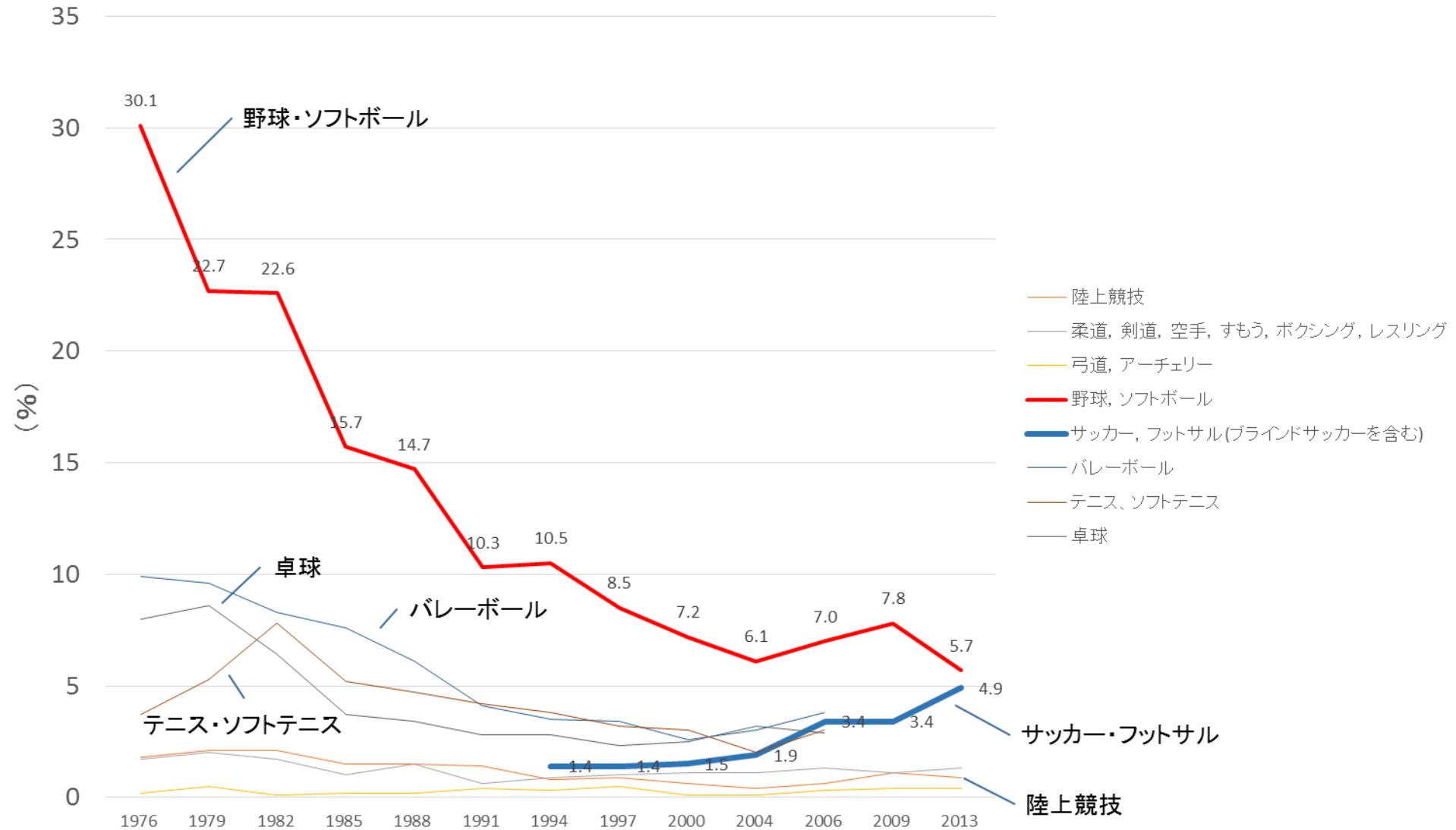
# 運動・スポーツ実施率の推移(年1回以上実施)



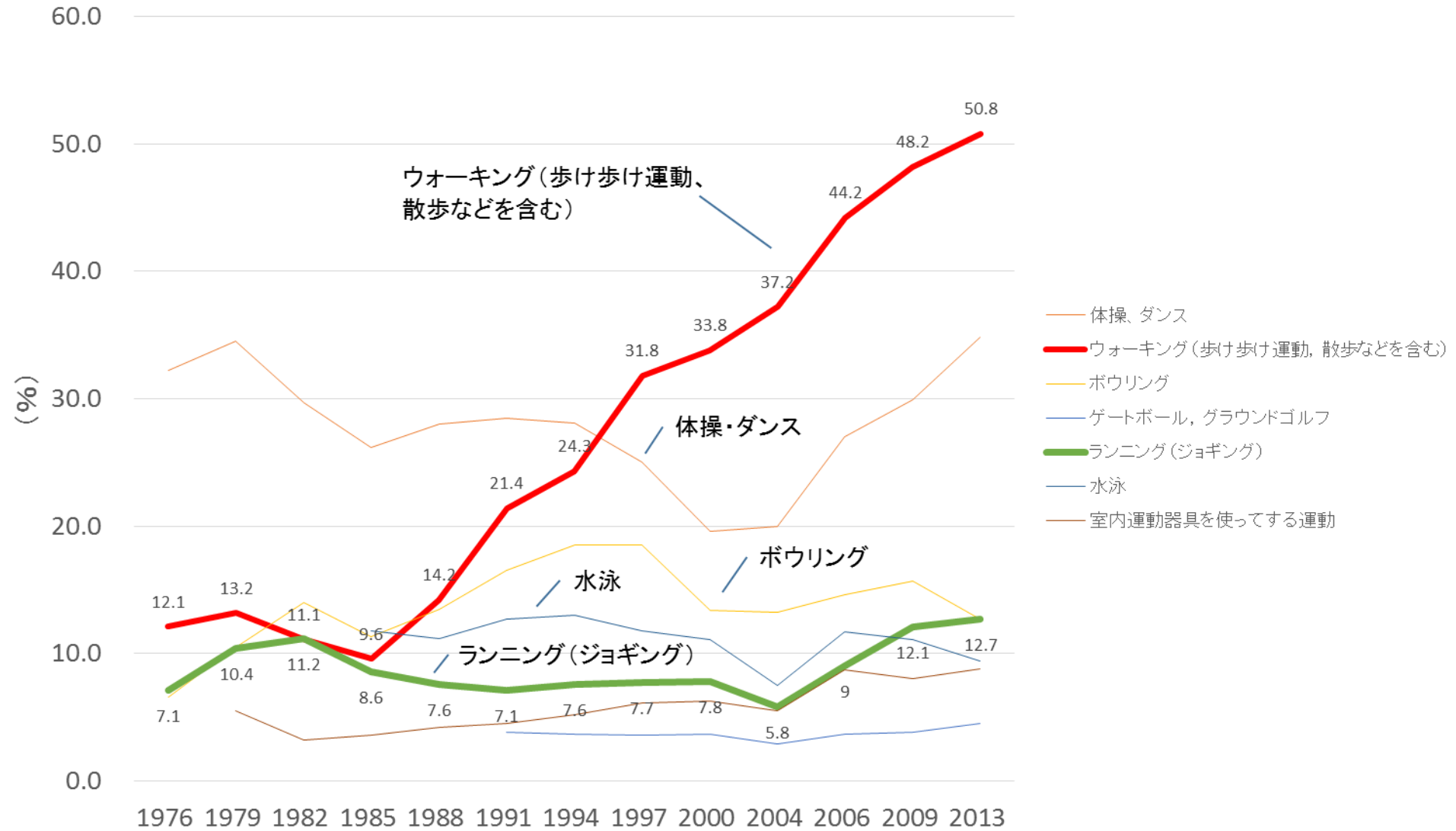
# 運動・スポーツ実施率の推移(週1回以上実施)



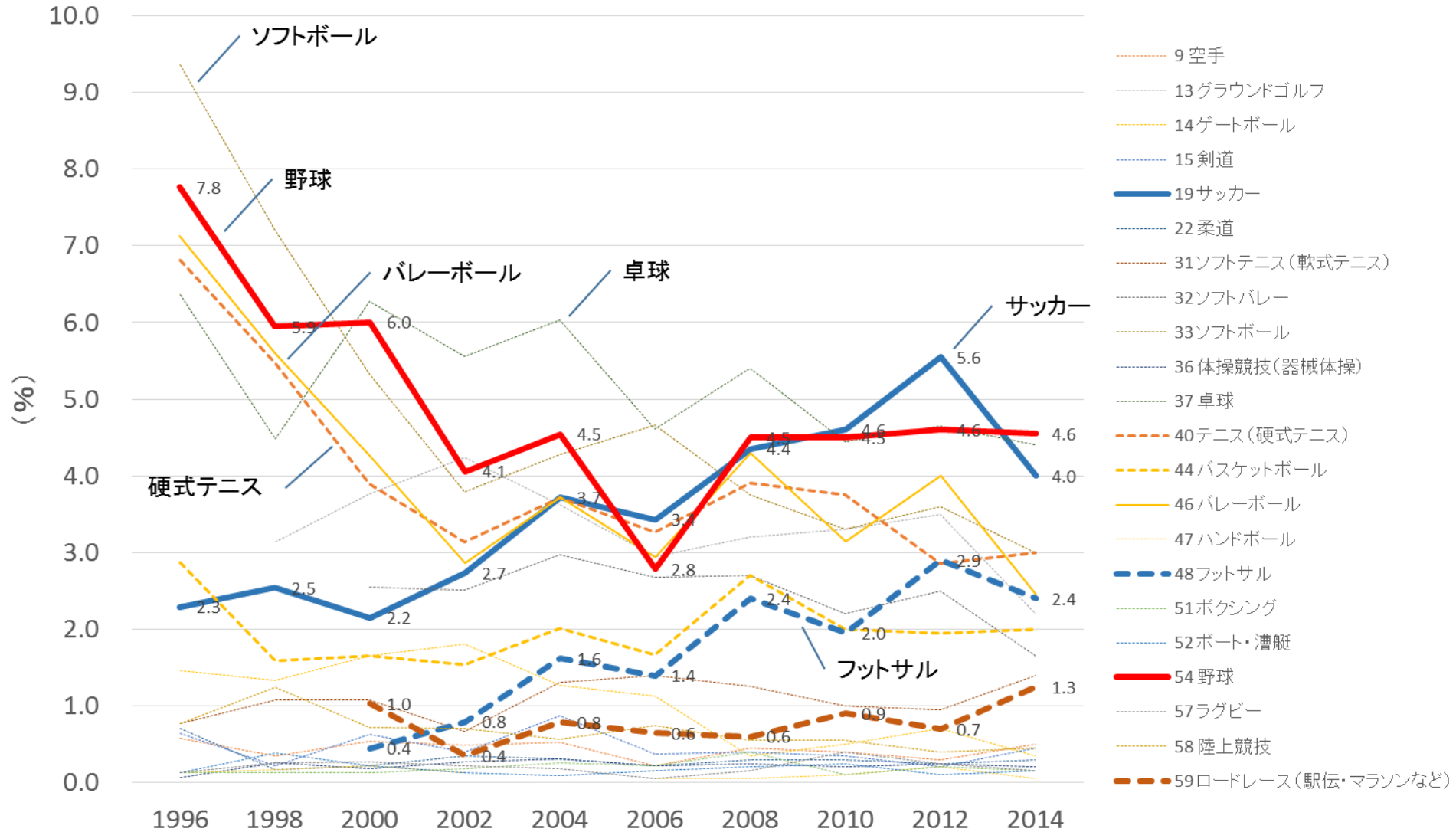
# 内閣府「体カ・スポーツに関する世論調査」(1976～2013) 「競技的スポーツ」実施率推移(過去1年間に1回以上)



内閣府「体力・スポーツに関する世論調査」(1976～2013)  
 「比較的軽い運動やスポーツ」実施率推移(過去1年間に1回以上)



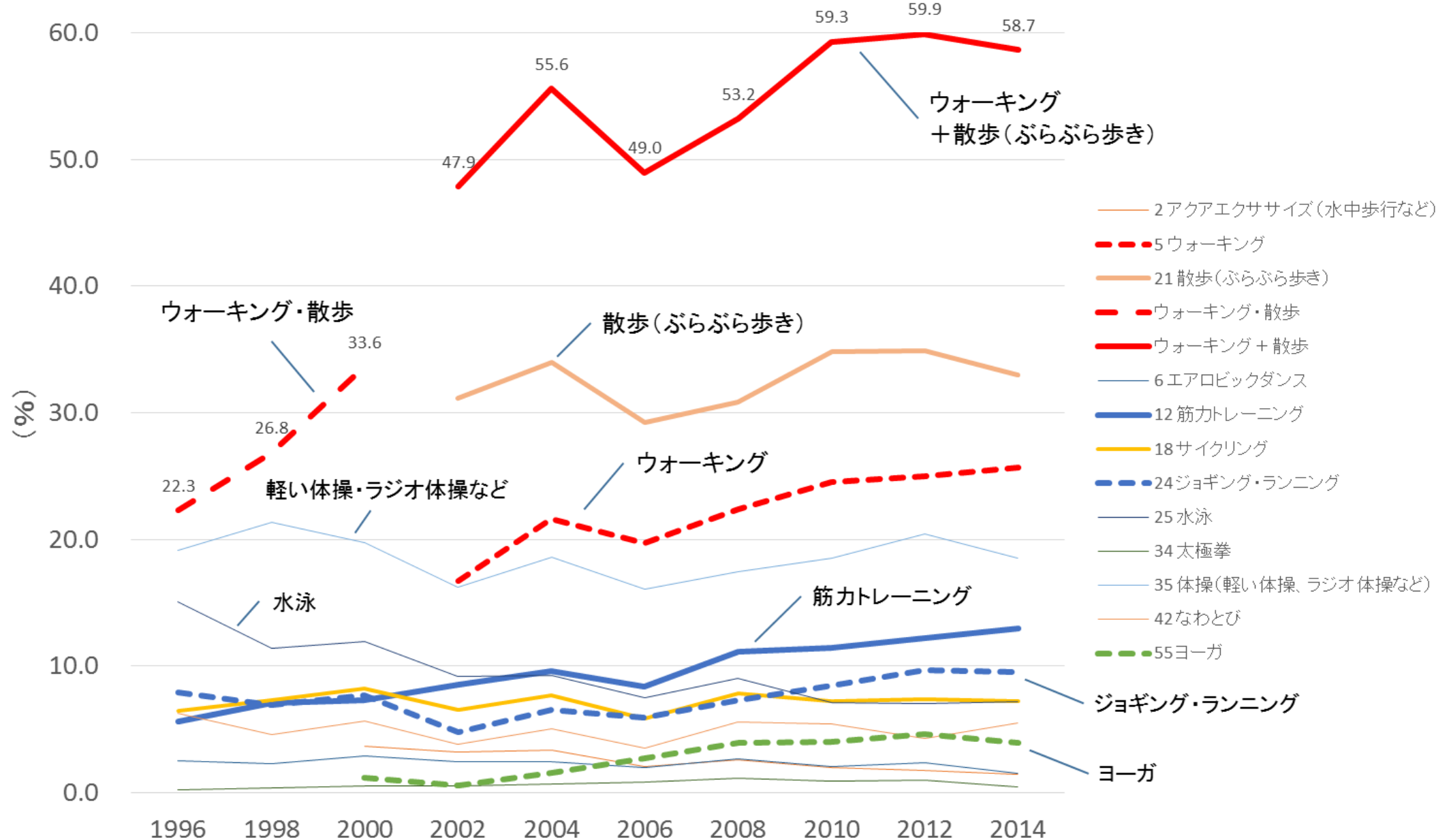
SSFスポーツライフデータ(1996～2014)  
「競技スポーツ種目」の実施率推移(過去1年間に1回以上実施)



▶ 競技スポーツ種目(競技スポーツ)・・・勝敗を競うゲームで、体協もしくはJOC加盟の競技団体が存在し競技普及への影響の大きい種目。  
※市場で供給されるレジャー的、フィットネス的な要素の大きいゴルフやボウリング、スキー、水泳などは除く。

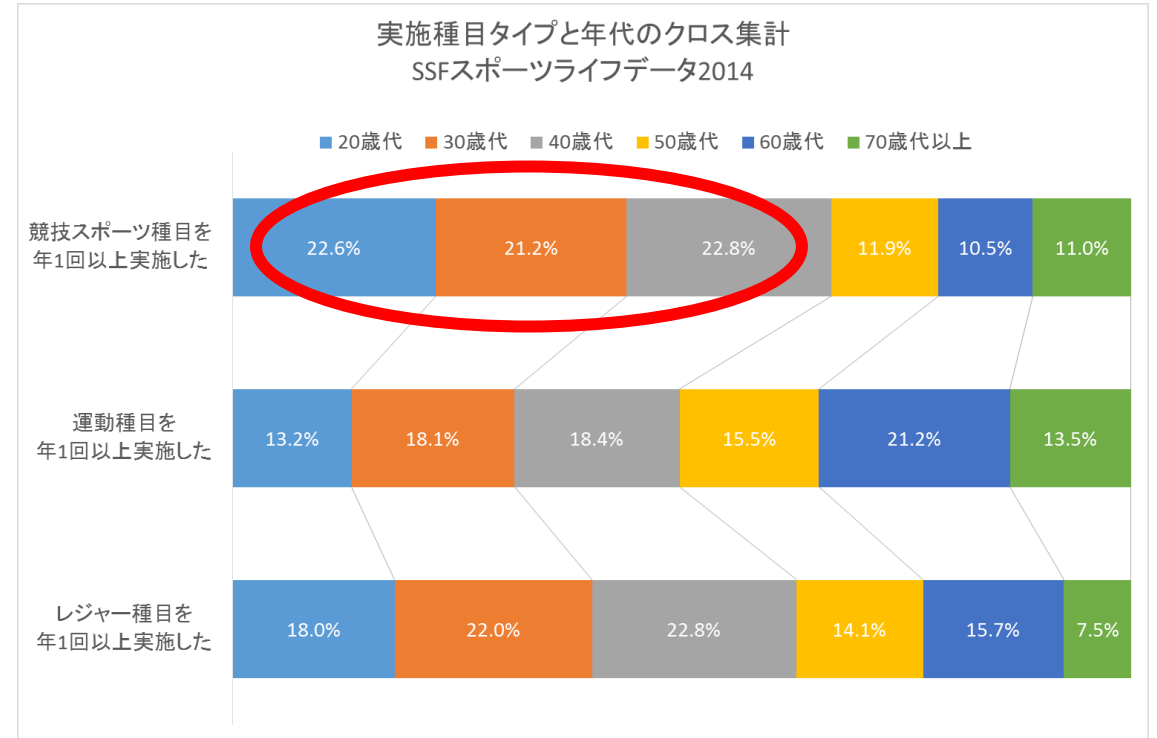
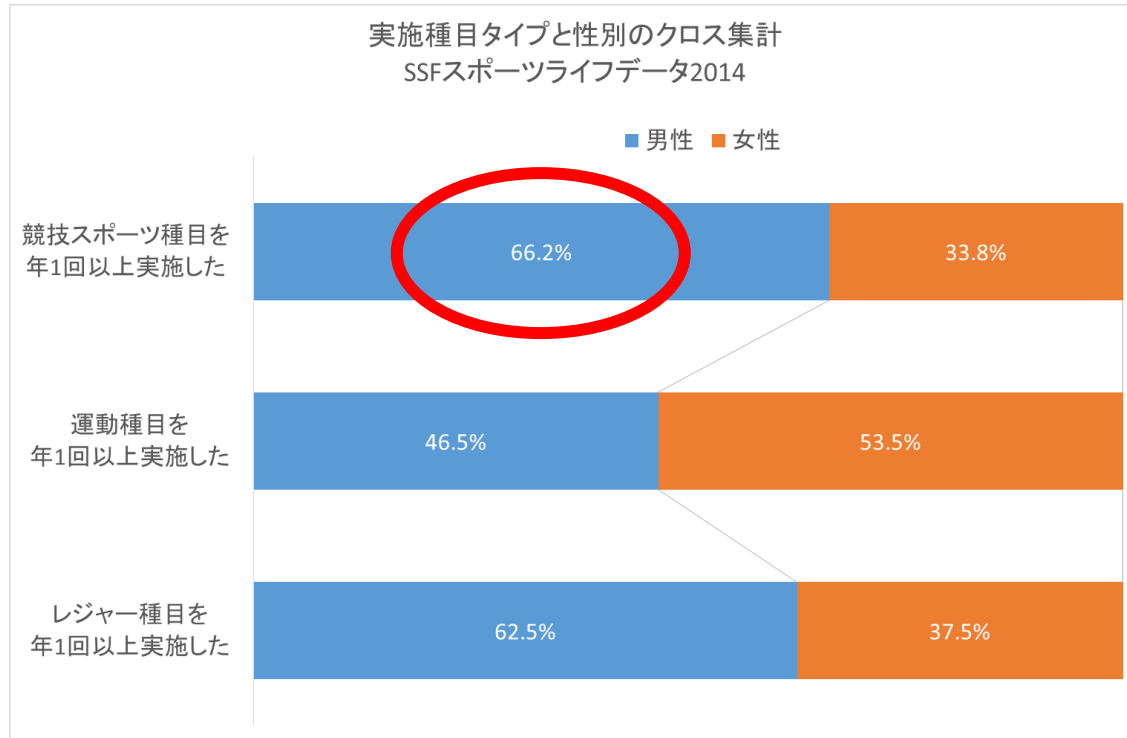
# SSFスポーツライフデータ(1996～2014)

## 「運動種目」の実施率推移(過去1年間に1回以上)



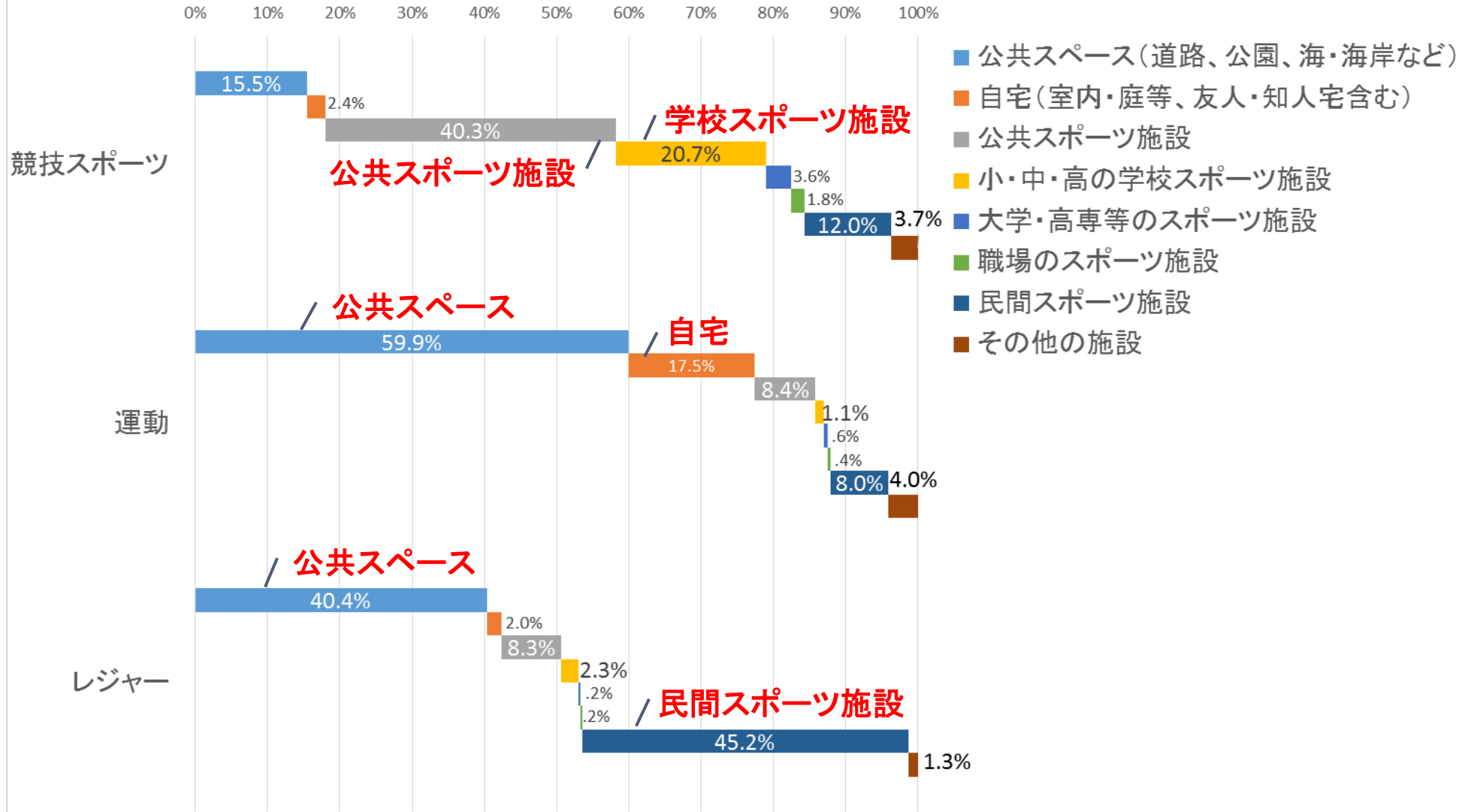


# 実施する種目と性別・年齢の関係



# SSFスポーツライフデータ(2012)

## 運動・スポーツの実施種目と実施場所



# Implication

---

- ▶ わが国の運動・スポーツ実施率は中期的に増加傾向だが、それはウォーキングやトレーニングなどの「運動種目」の実施率の増加による。特にウォーキング・散歩の増加が著しい。
  - ▶ 高齢化と健康への関心の高まり。
- ▶ 「運動種目」のほとんどは公園や道路などの公共スペースや自宅で行われている。
  - ▶ 健康増進を目的とした運動実施率の向上ということであれば、公園や道路、湾岸部や河川敷などの公共スペースを整備した方がよいかもれない。
- ▶ 一方で、「競技スポーツ」の実施率は減少もしくは長期停滞傾向。最新のデータでは年1回以上の実施率24.3%（週1回以上8.8%）で、さらに種目別にみるとそれぞれごくわずか。
  - ▶ 特に野球、ソフト、バレー、テニスといった一時期人気のあった種目の凋落。種目の多様化も全体の実施率は上がらず。
  - ▶ サッカー・フットサル、ロードレースが実施率を増やしているのは競技団体のマネジメントとマーケティングの成果？
- ▶ 「競技スポーツ」の実施率は男性および若年～中年世代に偏っている。
  - ▶ 競技スポーツの実施には明確な男女格差が存在。
  - ▶ これまでの実施率の推移をみても、人口の高齢化の点からも、競技スポーツの実施率を飛躍的に上げるのはとても難しそうである。

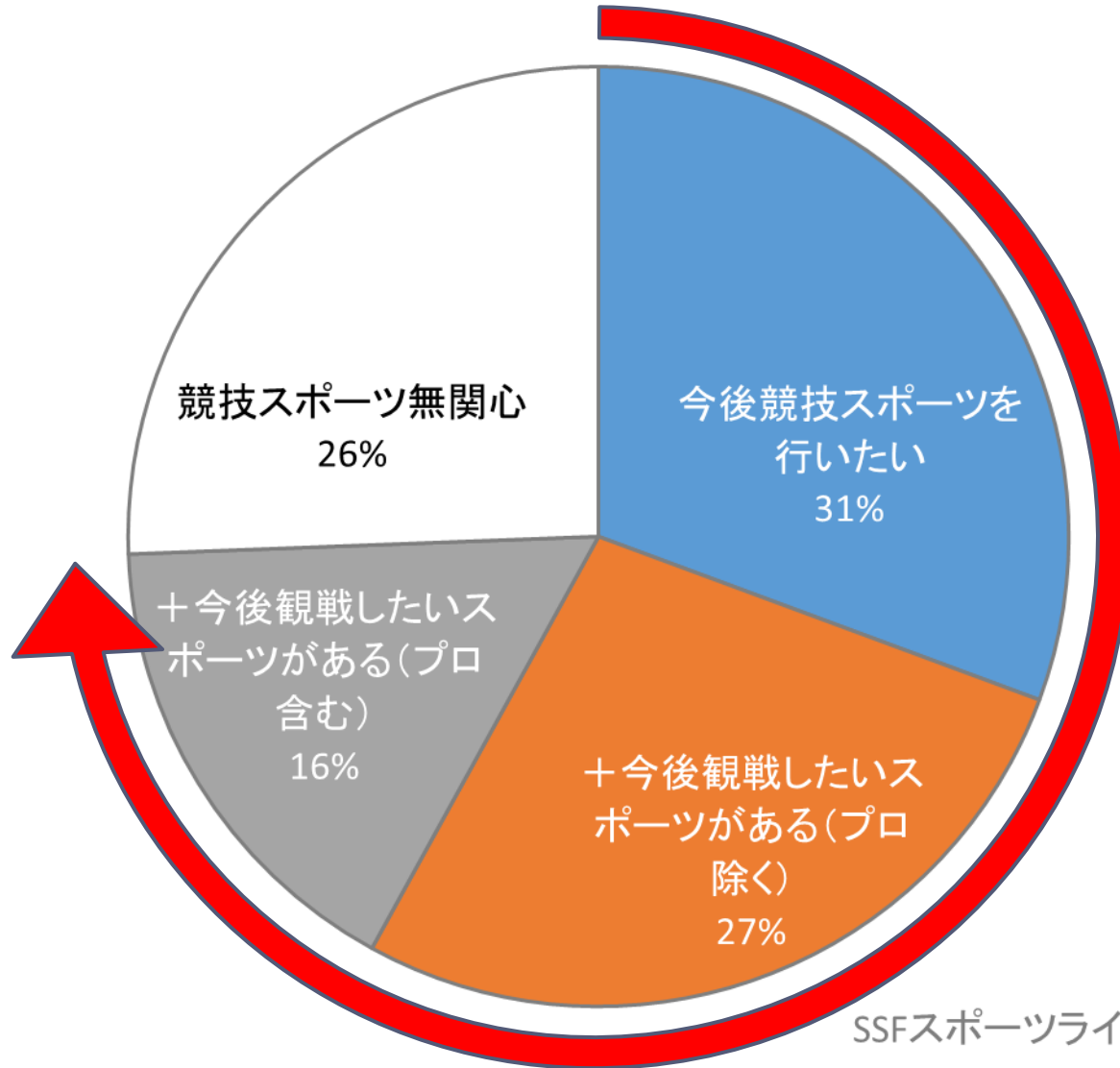
スポーツを「する」ニーズと「みる」ニーズ

# 競技スポーツの「する」ニーズと「みる」ニーズ

	(%)
競技スポーツを行っている（週1回以上）	8.8
競技スポーツを行っている（年1回以上）	24.3
<b>今後行いたい競技スポーツがある（現在行っているものも含めて）</b>	<u>30.7</u>
スポーツ観戦したことがある（非プロの競技団体による興行）※1	16.7
スポーツ観戦したことがある（プロ興行を含む）	31.5
<b>今後観戦したいスポーツがある（非プロの競技団体による興行）※1</b>	<u>44.9</u>
<b>今後観戦したいスポーツがある（プロ興行を含む）</b>	<u>69.3</u>

※1 NPB、Jリーグ、大相撲、bjリーグ、BCリーグ、公営ギャンブル、格闘技、モータースポーツなどの国内のプロ興行を除き、国内の中央競技団体や学生、社会人（トップリーグ）の競技団体による興行を対象とする（ただしサッカー男子日本代表を除く）。

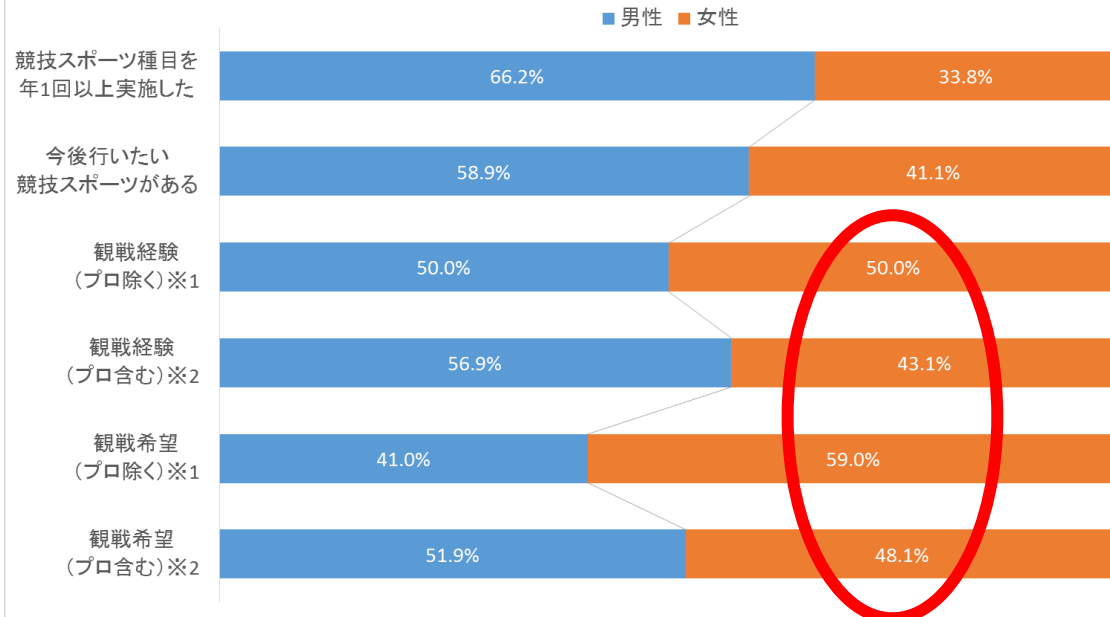
# 競技スポーツへのニーズ



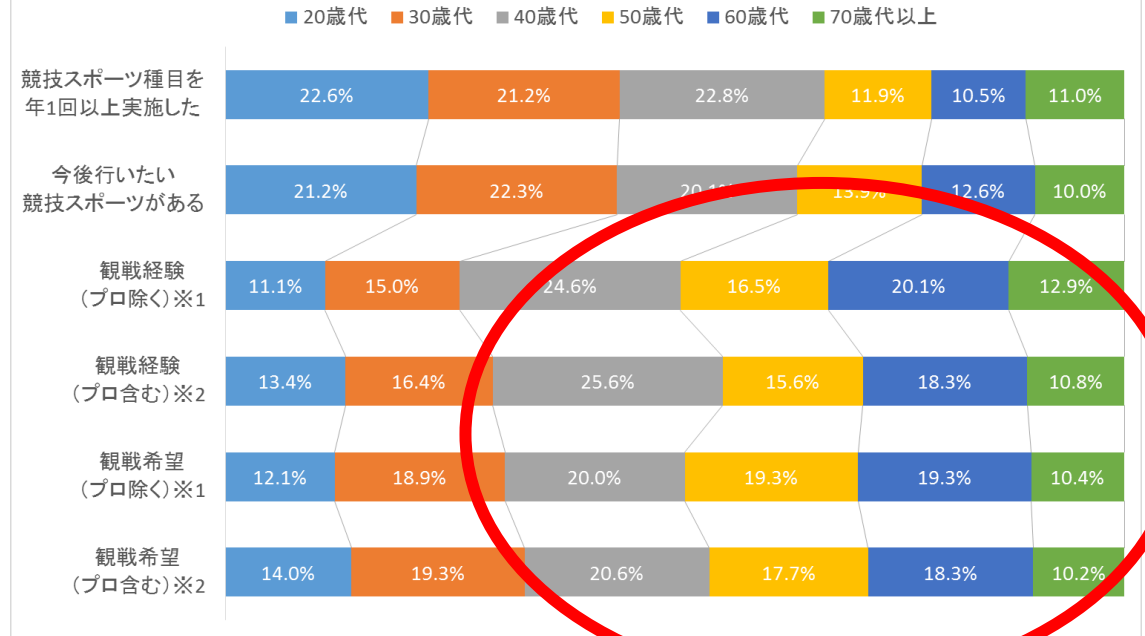
SSFスポーツライフデータ2014より

# スポーツ観戦経験・観戦希望と性別・年齢の関係

観戦経験・観戦希望と性別のクロス集計  
SSFスポーツライフデータ2014



観戦経験・観戦希望と年代のクロス集計  
SSFスポーツライフデータ2014



# Implication

---

- ▶ 試合＝イベントであり、「みる(観戦する)」要素がある、というのが運動やレジャーにはない競技スポーツの特徴。
  - ▶ スポーツ施設経営の観点からは、観戦者も施設利用者であり、顧客。
- ▶ 競技スポーツでは「する」ニーズよりも「みる」ニーズの方が高い。
- ▶ 競技スポーツは「みる」ニーズを取り込むことで需要が増え、かつ女性や中高齢者層などより広いセグメントに訴求することができる。





# 文化としてのスポーツ観戦

# 各種競技の平均観客動員数

---

▶ プロ野球（2014年）	
▶ セリーグ =	29,206人
▶ パリーグ =	23,709人
▶ Jリーグ（2014年）	
▶ J1 =	17,240人
▶ J2 =	6,589人
▶ J3 =	2,247人
▶ NBL(2013-14年) =	1,313人
▶ bjリーグ(2013-14年) =	1,596人
▶ トップリーグ(2013-14年) =	4,300人
▶ Vプレミアリーグ（2013-14年、1開催日平均）	
▶ 男子 =	2,267人
▶ 女子 =	2,754人
▶ Xリーグ(2014年) =	1,238人

---

→ こうしたリーグの経営的には大規模なスタジアムやアリーナより、観戦しやすい中規模の（陸上競技場でない）スタジアムやアリーナが必要とされる。



# 観戦対象としてのスポーツ

---

- ▶ プロスポーツ、ノンプロ・企業スポーツ、学校スポーツのトップレベルの試合
  - ▶ プロスポーツ興行 …… NPB、Jリーグ、大相撲など
  - ▶ 非プロ興行のトップスポーツの試合 …… 代表試合、トップリーグ(企業スポーツ含む)、国体など
  - ▶ 高校・大学のトップレベルの大会 …… インターハイ、甲子園、選手権、箱根駅伝、東京六大学野球など
  
- ▶ ノンプロ・企業スポーツ、学校スポーツの中・下位レベルの試合
  - ▶ 下位リーグ
  - ▶ 地区予選
  
- ▶ 地域スポーツ(コミュニティスポーツ)
  - ▶ 草野球、ママさんバレーなどのグラスルーツのスポーツ
  - ▶ 少年野球・サッカー、スポーツ少年団
  - ▶ 幼稚園、保育園、小学校の運動会… → 統計に反映されない“潜在的スポーツ観戦者”



# 米軍横須賀基地内のスポーツ施設（1998年）





# 米軍横須賀基地内のスポーツ施設 (1998年)

---





# 米軍横須賀基地内のスポーツ施設（1998年）





# 米軍横須賀基地内のスポーツ施設 (1998年)





# 一方・





# 「スポーツをみる文化」を支える施設...

---



スポーツを「みる」ニーズに対応したスポーツ施設の施設設計やデザイン

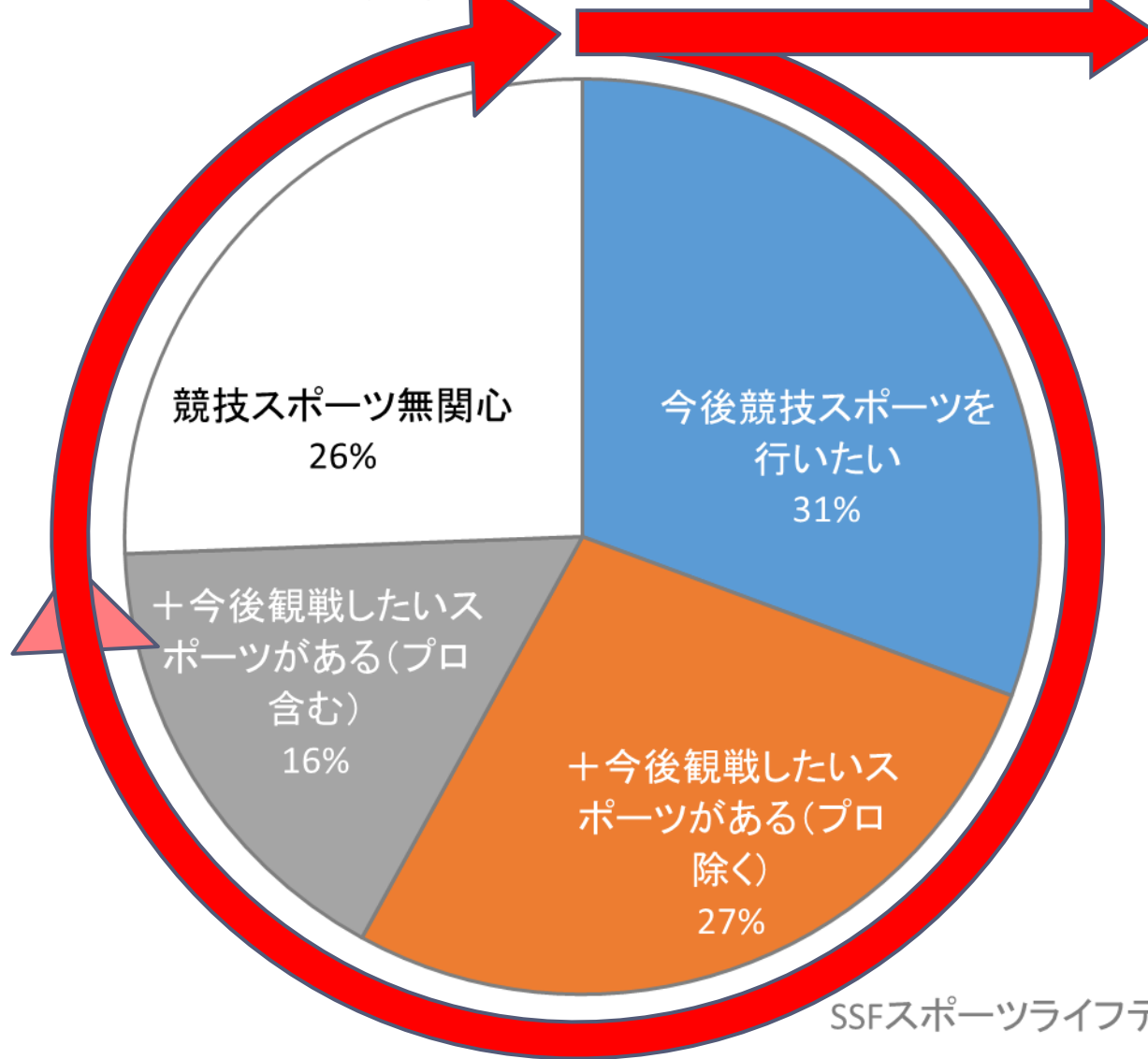
→ アクセス、観客席、屋根、飲食、トイレ、アメニティ、子ども関連(プレイルーム、授乳室、託児所...)、バリアフリー...

---



競技スポーツへのニーズ

## スマート・ベニュー



スポーツ参加者だけでなく、スポーツ観戦者にとっても快適で使い勝手よく、スポーツにあまり関心のないより多くの都民にとっても魅力的でスポーツへの関心を広げる可能性のある施設へ...

SSFスポーツライフデータ2014より